

さわかぜ

sanwa chiku-syakyō

発行責任者:三和地区社会福祉協議会
会 長 福田 隆一
編集責任者:広報部長 川上 保
事 務 局:三和保健福祉センター内
(サンハート内)
電 話:0436-37-7100

令和6年度

顔がつながる相互信頼に向けて

歳末ふれあい福祉

令和6年度 歳末たすけあい募金 御 礼

昨年末、地区内各町会長へご協力のご案内を申し上げました歳末たすけあい募金の集計結果、下記の募金を賜りました。関係各位のご尽力に心より感謝と御礼を申し上げます。ありがとうございました。

	募金内訳(円)
市 西 地区	69,700
養 老 地区	92,100
海 上 地区	25,000
光風台地区	0
4地区合計	186,800
フリマ募金	2,040
総 計	188,840

歳末たすけあい募金は、千葉県共同募金会が主催し、県内各種団体・市社協が取り組む、歳末たすけあい運動(地域福祉支援事業)の財源として活用されています。三和地区においては、下記4地区の小域福祉ネットワークが「歳末ふれあい福祉事業」として、それぞれが企画・立案し、市社協への事業申請によって、その財源が賄われています。

ご協力頂いた募金は、地域の福祉活動に還元される貴重な財源となることにご斟酌を賜れば幸いです。



左:訪問先では感謝のお言葉
下:仕分け準備中の贈答品

市西地区では、安心生活見守り訪問員が、高齢者宅(三十世帯)を定期的に訪問しています。取り分け、この十二月の訪問は、『歳末ふれあい福祉活動』と位置付け、訪問時に粗品(非常用食品とお菓子)を持参。ご高齢者と訪問員との絆を深める機会とするほか、会話を通した生活上

市 西
会話を通し
元気も伝わる取組みに

の相談にも応じています。訪問先では、「いつも気遣ってくれてありがとう」や、「お若い方が話相手だと若返りの元気を頂けるね」等、好評です。見守りの申込みはいつでも受付中です。各町会長などにご連絡を!

上 海
相談事例の研修軸に
新たな要望にも対応

海上地区では、包括支援センター長、四方氏による高齢者からの悩みや相談事例を学ぶ訪問員フオーアップ研修を実施。地域の実情を踏まえた上で、二十名の見守り訪問員が三十二名のご高齢者宅をそれぞれ訪問。

「焼き海苔」をお届けしながら、相互の絆を深める取組を展開しました。また、ネットワークの活動紹介にも努める中、



上:研修参加の訪問員の皆さん
左:各戸を訪問の様子



【町会長の笑顔も好感です】

老 養
訪問の合言葉は
「皆さんが見守ってます」

養老地区での『歳末ふれ

あい福祉活動』では、町会長・民生委員のご協力の下、一人暮らしのご高齢者四十五名宅を訪問。各戸に感染予防マスク・ハンドスプレー・ホッカイロ・養老小の子供たちからのクリスマスカードを添えて配布しました。訪問時は、「町会の皆さんが見守っています」を合言葉に、体調のご様子を伺いながら、ご高齢者を孤独にさせないような活動としています。これからも元気で過ごせるよう、地域の「絆」と「共生」を確認しながら、訪問活動を続けます。

光風台
ご様子を伺いながら
地域の絆より強める



【宅配担当民生委員さん】

光風台地区では、小域福祉ネットワーク・地区民生委員・光風台小学校三者の協働事業として、地域にお住いの一人暮らしの方々に対象にしたクリスマスカードとお菓子の宅配に取り組みました。

子供たちには、カード作成を通して地域のつながりを考える機会に、また、宅配は民生委員の方々に担って頂き、ご高齢者の健康や生活の様子も伺いながら、孤独や孤立感を解消につなげて頂く事を目的としました。この取組みを通して、年々増加する高齢層の課題と向きあい、互いの絆をより強める地域福祉を目指してまいります。



市社協
ホームページ

回顧録

第6弾



元陸上自衛隊航空学校

整備・操縦教官 八巻 正時

時は移ろい四十九年間

最終職位操縦教官で退官

令和四年三月、私は自衛隊を退官した。顧みると少年工科学校時代も含め、四十九年間に及ぶ自衛官生活だった。この間、その時々々の流れに抗することなく最終的には、整備・操縦教官として、安全に重きをおいた後人の育成に尽力してきた。自衛官一筋の歩みだっただけに、退職時は

一抹の寂しさを感じたものの、これからが第二の人生。培った技術・技能を活かせる道へ進もうと思った。また、長かった単身赴任生活を思うと、子育てを含め、家庭を守ってくれた妻への感謝の気持ちもひとしおだった。そんな折(令和五年五月)、大変光栄なことに天皇陛下への拝謁ならびに瑞宝双光章の叙勲

時代に流されて生きる！ チャレンジ精神を忘れず

の榮譽を頂いた。当時コロナ禍で、拝謁は叙勲者のみとなつてしまったが、レセプションには妻も出席し、生涯の思い出となった。現在の私は、市原青年矯正センターに作業補佐員として勤務し、収容者の社会復帰へ向けた教育・訓練のサポート役を担っている。また、町会(新巻)の伝統民芸「祭り囃子」を入所者の情操教育の一環として取上げて頂き、毎月一回町会のメーバーとセンターに赴き、お囃子の指導にも取り組んでいる。現役当時は、町会(新巻)の事業に参加する機会も少なかったが、

そんな未熟な私にも町会長を務める時期があった。当時「あつたかネット養老」(養老小域福祉ネットワークの愛称)の取り組みを通し、互いが協力しあう大切さも体験。現在も自分に出ることがあれば、継続して参加している。地域の高齢化も進んでいるが、私は団塊世代より一回り若い年代。まだまだ社会貢献出来ることはあると思う。これからもチャレンジ精神を忘れずに、不易流行の考え方でうまく時代に流されて生きたいと思う。【本号で校了となります】

令和6年度、3回目となる福祉教育が開催されました。この取り組みは千葉県の福祉教育指針に基づき、地区社協と地域の高校・中学・小学校の協働事業として行われ、昔遊びを教育媒体に相互連携と世代間交流を通して地域福祉の気運を高める取り組みです。



【双葉中2年生が指導役の開会セレモニー】



【子どもたちも集団で遊ぶ楽しさを体感】

昔遊びを教育媒体とした取り組みは、まず、地区社協が高校生を指導(初回)。

次に高校生が中学生の指導役(二回目)となり、三回目は中学生が小学生の指導役を担う、順送り方式で年間サイクルを回す仕組みとし、今回は光風台小学校を舞台とした三

市原 高校
双葉中学校
光風台小学校

県福祉教育指定校 社協と共に順次指導を担う

回目の取り組みです。媒体とした遊びは、ケンダマ・コマ・おはじき・竹とんぼ・羽子板の五種目。これを一班十五分

ほどで全種目を体験し、中学生は指導体験、小学生はみんなで遊ぶ楽しさを体験。賑やかな声が響く一日となりました。

不要品に新たな価値を 次年度も開催予定です



* 日用品や衣料品
子供のおもちゃ・ぬいぐるみや実用品まで、多くの出展がありました。

十一月三日(日)、地区社協のフリーマーケットが、サンコミ祭りの会場をお借りし、開催されました。従来のバザーと異なる点は、個々の売却金は出品者自身の売上金となり、出品者それぞれが、売上金の中から任意の金額を社協への福祉事業協力金としてご寄付頂くことです。当日は天候にも恵まれ、たくさんの方の皆さんが来場されました。次年度も開催を予定しておりますので、あなたも、ご家庭で不要となった身の回り品を、第二の利用者に活用して頂くのは如何でしょうか。

三和・南総・加茂地区の「フードパントリー」 三和保健福祉センター(サンハート)にて開催

昨年、11月23日、市社協が主催する「フードパントリー」が、サンハートを会場として開催されました。この取り組みは、市内在住で食品の提供を希望する子育て世帯が対象となり、当日は参加申込みを頂いた52世帯の母子が集いました。

催しの内容は、①地域住民や企業・商店等よりご寄付頂いた食品の無償配布、②いちばら生活相談サポートセンターによる出張相談、③いちばら地域・子ども食堂ネットワークによる軽食の提供、④ボランティアグループによる遊びの場の提供。参加頂いた各家庭からは、「助かりました」「来てよかった」「子ども食堂の軽食うれしかった」「遊び場コーナー、すごくよかった」など、好評をたくさん頂きました。応援出店頂いた、姉崎・千種・国分寺台・五井地区それぞれの協力に加え、遊びの場を提供頂いたボランティアグループの皆様、本当にありがとうございました。



【子供食堂・盛況でしたよ！】



【遊びの場も超人気コーナーでした】



【お好きなものを自由に選んでネ！】



* 市社協マスコット
よつばちゃんも着ぐるみでお出迎え